

次号予告

- 巻頭言 カーボンニュートラル時代に必要なCO₂とH₂の大量輸送技術 (早稲田大学) 中垣隆雄
- 特集 CO₂, H₂の輸送・運搬技術動向
- CCS普及に向けた液化CO₂船舶輸送の技術課題 (東京大学) 尾崎雅彦
- CCSにおける液化二酸化炭素の相転移挙動, 物性について
(日本炭炭) 大保俊明 / (エンジニアリング協会) 河野 巧 / (お茶の水女子大学) 森 義仁
- 液化CO₂タンク用鋼板とタンク大型化の課題 (日本製鉄) 猪狩玄樹
- 大型低圧液化CO₂輸送船に求められる液化CO₂ハンドリング技術 (三菱造船) 安部和也 / 小形俊夫 / 渡部亨尚
- 液化水素の製造・貯蔵・輸送技術 (岩谷産業) 辻上博司
- 液化水素運搬船による国際水素サプライチェーン構築の技術実証と商用化への展望
(川崎重工業) 海野峻太郎 / 下垣貴志 / 亀野雄一
- 3種類の液体水素気化器を用いた実証試験 (神戸製鋼所) 江頭慎二 / 松田日嘉 / 鶴 慶彦
- カーボンニュートラル社会実現に向けた安全弁の取り組みに関して (福井製作所) 小松宏和
- CO₂の輸送・圧入時における不純物駆動型腐食のシミュレーション技術 (OLI Systems, Inc.) 薬師寺光

次々号予告

特集：プロセスプラントの安全、健全性とAIの活用
プロセス安全におけるHAZOPスタディとSILスタディの役割
高圧ガス関連産業における法規制と認定制度
水素ステーションの安全性評価研究の動向
プロセスプラントにおけるリアルタイム支援の可能性
プロセスプラントの安全性健全性の担保/保証 - サイバーセキュリティなど関連リスクへの対応を含む新たな認定制度の詳細設計 - RBMを巡る動向と展望
海外のプロセスプラントにおけるAI活用例

◇会員数(2025年8月末現在)

種別	概要	前月会員数	当月会員数
維持会員		76社(97口)	76社(97口)
特別会員		381社(383口)	381社(383口)
正会員		4,752	4,748
学生会員		1,210	1,291
教育会員		12	12
海外会員		188	188
名誉会員		111	111
個人会員計		6,273名	6,350名

2025年9月20日 印刷 2025年10月5日 発行
化学工学 第89巻 第10号(2025)
定価 1,925円(税抜価格1,750円)

発行人 東京都文京区小日向4-2-8 大樹生命文京小日向ビル4F
公益社団法人 化学工学会 三谷 誠

制作・印刷 東京都港区三田5-14-3
昭和情報プロセス株式会社

発行所 [112-0006]東京都文京区小日向4-2-8 大樹生命文京小日向ビル4F

公益社団法人 化学工学会

©2025 The Society of Chemical Engineers, Japan
電話 03(6801)5563(代) FAX 03(6801)5564
振替口座 00170-0-131518番
取引銀行 三菱UFJ銀行池袋支店 普通5902173

北海道支部 [060-8628] 札幌市北区北13条西8丁目、北海道大学大学院
工学研究院 電話(0143)46-5747 FAX(0143)46-5701

東北支部 [980-8579] 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-07、東北大学工学部
化学・バイオ工学科内 電話・FAX(022)712-0887

関東支部 [112-0006] 東京都文京区小日向4-2-8 大樹生命文京小日向ビル4F
電話(03)6801-5563(代) FAX(03)6801-5564

東海支部 [466-8555] 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学生命・応用化学科
化学工学研究室内 電話(080)4525-3070 FAX(052)735-5255

関西支部 [550-0004] 大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センター内
電話(06)6441-5531 FAX(06)6443-6685

中国四国支部 [770-8506] 徳島県徳島市南常三島町2-1 徳島大学理工学部
理工学科応用化学システムコース内
電話(088)656-7429 FAX(088)656-7429

九州支部 [819-0395] 福岡市西区元岡744 九州大学大学院工学研究院
化学工学部門 電話・FAX(092)802-0009

～第1回化学技術者のための産学官フォーラム～

CCUSをめぐる 最近の政策動向と技術開発の方向性



- 化学工学会では現在、社会課題の解決を大きなミッションとして産学が連携し、様々な活動を展開しております。社会課題を解決するためには、いかなる未来を描き、そこで必要な技術を開発し、社会実装に向けてあらゆる角度から検討を重ねていくことが求められております。
- そこで産学官連携センターでは、産学官の英知を結集し、ミッションを達成するために「産学官フォーラム」(以下、本フォーラム)を設立することになりました。本フォーラムでは今般、広く注目を集めているCCUSをテーマとして、それに関連する政策と技術開発の現状と課題を理解し、さらには産学官で相互に議論する総合討論を実施します。課題究明の絶好の機会として、各方面でご活躍される皆様の本フォーラムへの積極的なご参加をお待ちしております。

日時

2025 **11.12** **水** 13:30 - 17:30

受付開始 13:00

会場

東京理科大学 森戸記念館 第1フォーラム
住所:東京都新宿区神楽坂4-2-2

開催形態

オンサイト(現地)とZoomによるオンライン開催
(注)オンライン参加者は聴講のみとなります。あらかじめご了承ください。

定員

会場60名・オンライン300名
(定員になり次第締め切り)

お申し込み

参加申込・送金締切 **11月7日(金)**

右記のQRコードよりお申し込みください。



参加費

会場ならびにオンライン参加同額、消費税を含む

正会員 (海外正会員、海外連携会員を含む)	5,500円
法人会員に属する社員 (維持会員・全国特別会員・特別地区会員)	11,000円
協賛団体会員(個人・法人)	16,500円
会員外(個人・法人)	22,000円
懇親会参加費	4,000円

主催:公益社団法人化学工学会 産学官連携センター

協賛(予定):公益社団法人化学工学会産学官連携センター開発型企業の会、経営システム研究委員会、SCE・Net、グローバルテクノロジー委員会、公益社団法人化学工学会CCUS検討委員会、化学工学会分離プロセス部会、化学工学会各支部、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人石油学会、一般社団法人触媒学会、分離技術会、日本膜学会

お問い合わせ先

公益社団法人化学工学会 産学官連携センター

〒112-0006 東京都文京区小日向4-2-8 大樹生命文京小日向ビル4階

事務局 担当 澤田 E-mail:sangakukan@scej.org

PROGRAM (講演3件、各講演50分)

13:30~13:35 開会の辞

化学工学会
副会長 産学官連携センター長

芳野 正 氏



“産学官連携センター”では産業界、学術界、政府関係機関を結び、相互理解を深め、夫々の社会課題を支え合いながら解決することを目指しています。
“産学官フォーラム”は、カーボンニュートラル社会の実現に向け、最新の政策動向や技術開発の方向性について理解を深める場として企画いたしました。本フォーラムでは、官側の政策担当者から直接お話を伺い、産業界・学術界の皆様とともに、社会実装に向けた課題や展望について多角的に議論を進めます。多様な立場からの意見交換を通じて、政策への理解を深め、今後の技術発展や社会課題の解決に向けたヒントを得る機会となれば幸いです。

13:35~13:40 ファシリテーター紹介

化学工学会
CCUS 検討委員会 委員長

大場 茂夫 氏



略歴

1977年 東京都立大学工学部工業化学科 卒業
1985年 東京都立大学大学院工業化学専攻 博士課程修了 工学博士
同年 東洋エンジニアリング株式会社 入社
1993年 株式会社アスペンテックジャパン 入社
2008年 Process Systems Enterprise, Ltd. (UK) 入社
2009年 株式会社応用物性研究所設立 代表取締役就任
2022年 化学工学会 CCUS 検討委員会 委員長

1 講演

「CCUSに関する取組」

13:40~14:30

経済産業省 資源エネルギー庁

資源・燃料部 燃料環境適合利用推進課(カーボンマネジメント課)

講演者調整中

2 講演

14:30~15:20

「NEDOにおけるカーボンリサイクル/CCS技術開発の取り組み」

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 布川 信 氏

2050年カーボンニュートラル実現に向け、CO₂排出量の削減に繋がる様々な取り組みが進められている。本講演では、CO₂を炭素資源と捉え多様な炭素化合物として再利用するカーボンリサイクル、CO₂を分離回収し貯留するCCSなど、NEDOが実施するCO₂排出削減に向けた技術開発の概要を紹介する。

3 講演

15:20~16:10

「川崎重工における燃焼排ガスおよび空気からの二酸化炭素回収技術の開発」

川崎重工業株式会社 奥村 雄志 氏

二酸化炭素の回収・貯留・有効利用(CCUS)は、地球温暖化抑制に向けた重要な対策技術である。川崎重工では、産業分野におけるCO₂排出量削減を目的に、火力発電等の排出源からの燃焼後排ガスに含まれるCO₂回収と、ネガティブエミッションを実現する空気からのCO₂回収の両面に取り組んでいる。どちらも固体材料を用いたCO₂回収プロセスの開発を進めており、本講演では、当社技術の概要と商用化に向けた各種実証試験の状況について紹介する。

16:10~16:30

休憩 20分

16:30~17:30

総合討論

(講師+ファシリテーター) 60分

17:30

閉会の辞

17:45~19:30

講師を囲んだ懇親会

懇親会会場

ルコ(パーティースペース)

<https://intelligent-lobby-ruko.gorp.jp/>

〒162-0824

東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル

TEL:050-5493-6695

東京理科大学森戸記念館より徒歩5分